

# 今月の Pick Up

新たな学びの選択肢

## 01 令和8年4月に「学びの多様化学校」を開設します



「学びの多様化学校」とは、学校に行きづらい子どもが、自分のペースで安心して学んでいくことができるように、**子どもの「自分らしい学び」を応援する新しい学びの形の学校**です。市では、令和8年4月に潮江中学校の分教室として開設します。

### 潮江中学校 分教室

- ▶開校 令和8年4月
- ▶場所 潮江市民図書館4階（棧橋通2-1-50）

### 令和8年度 生徒募集

- ▶対象 ①～③の全てを満たす方
  - ①市立中・義務教育学校（後期課程）に在籍
  - ②心理的要因等により学校を30日以上欠席
  - ③保護者が学びの多様化学校分教室の趣旨を理解し、本人に登校する意欲がある
- ▶募集 新中学2・3年生 合計15人程度
  - ※新中学1年生は進学後、登校に困難を感じる状況になった場合、転入学を検討ください。

編集室がピックアップした旬な話題をお届け！詳しくは各ホームページをご覧ください。

### 学校説明会を開催します

- ▶対象 入室を検討している児童生徒とその保護者（保護者のみの参加も可）
- ▶日時 ① **11月14日（金）** 16時～17時  
② **11月15日（土）** 10時～11時のいずれか
- ▶場所 アスパルこうち4階 ホール（棧橋通2-1-50）  
申し込みフォーム
- ▶申込 11月13日（木）17時までに、申し込みフォームから。



生徒募集への申し込み方法など詳しくは、説明会に参加いただくか、お問い合わせください。

【問い合わせ】教育研究所 学びの多様化学校担当  
☎ 832-4498  
（祝日を除く月～金曜日9時～17時）

## 02 「若年性認知症」をご存じですか

若年性認知症とは、65歳未満で発症する認知症のことをいいます。主に働き盛りの若い世代で発症するため、本人だけでなく、家族の生活にも大きな影響を及ぼします。また、発症から診断が確定するまでに時間がかかることも多いとされています。本人や家族が誰にも相談できず、不安や孤独を抱えたまま過ごすことのないよう、そして、仕事ややりたいことに取り組みながら、住み慣れた地域で仲間とつながり自分らしく暮らし続けるためにも、早期受診や相談を心掛けましょう。

### 「もしかしたら？」と思ったら受診しましょう

外科的・内科的疾患による認知機能の低下は、治療により症状が改善する場合があります。「最近もの忘れが多い」「行動や会話が以前と違ってきた」など気になることがあれば、かかりつけ医や専門医を受診し相談をしましょう。



### 相談窓口があります

若年性認知症コーディネーター等と連携しながら、保健師等が相談と支援を行っています。若年性認知症の方や疑われる方、家族や職場の方などからの相談を受け付けています。まずはお電話ください。

- ▶健康増進課  
（丸ノ内1-7-45 総合あんしんセンター1階）  
☎ 803-8005

市では相談窓口や医療機関、交流・情報交換の場、当事者の声などをまとめたリーフレット「高知市認知症ケアパス」や動画を作成しています。



詳しくはこちら▶

【問い合わせ】健康増進課 ☎ 803-8005



夕暮れ時に、柔らかい光に包まれるコスモス。毎年この時期になると一面にコスモスが咲き誇り、その美しさに魅了されます。

DATE ■ 2024/11/11  
PLACE ■ 高須

### 高知市の SNS 等



高知市介護保険課「こうち介護カフェ」  
[kochi\_kaigocafe]

介護に関わる事業所や職種の垣根をなくした情報共有・連携の場「こうち介護カフェ」開催のお知らせや実施報告を発信しています。



フォローはこちらから▶

### 高知市の人口と世帯

令和7年10月1日現在

人口(前月比) ▶ 30万9,121人(-199人)

男	14万4,609人(-69人)	増加	出生155人	転入等500人
女	16万4,512人(-130人)	減少	死亡334人	転出等520人

世帯(前月比) ▶ 16万3,747世帯(-8世帯)

増加	転入375世帯	その他164世帯
減少	転出301世帯	その他246世帯

## 市らんく 元気人! Vol.32



profile ▶▶▶ 西村 寛 Nishimura Hiroshi (50)

高知市出身。バレーボールクラブ「Joker」選手兼監督、ビーチバレークラブ「Bea's」代表。バレーボール・ビーチバレーともに県選手権大会の最年長出場記録を更新中。主催大会など詳しくはこちら▶



## 「楽しさ」を原動力に跳ぶ

焼けた肌が青空によく似合う西村寛さん。学生時代に一度離れたバレーボールを社会人になって再開し、現在も選手として活躍しています。「社会人クラブは『やらされる』より『楽しむ』練習なので続けられるんですね。そこから実力を伸ばす選手もたくさんいます」と話します。そして30代から始めたビーチバレーも「背の高さよりも、指先の使い方など技術が得点につながるころが面白い」「ビーチバレーの技術や視点が、バレーボールの戦術にも深みを持たせてくれる」と、すっかりはまりました。

どちらのスポーツにも共通するのは、「仲間と一緒に頑張れる」「点を

取るまでに、それぞれの役割とストーリーがある」こと。西村さんは「やるのも、見るのも好き。みんなで楽しさを共有できたら」と、現在は選手以外にもバレーボールクラブの監督を務め、ビーチバレークラブでは代表としてヤ・シィパークで定期的に大会を主催するなど、競技人口拡大や後進育成にも力を注いでいます。「若い世代にバレーボールもビーチバレーも楽しんでもらいたい」と、笑顔で語る西村さん。「楽しい」を力の源に、忙しく充実した日々はまだ続きます。

▶仲間がつかないボールを返球する西村さん。

